

実施学科課程表(17生以降)

経済学科

(令和5年度)

学科目	授業科目	単 位	開 講 年	実 施 時 期	学 科 基 礎 目	副専門科目			レ ベ ル	担 当 者	教 員 免 許 該 当 科 目	グ ロ ー バ ル 科 目	シ ラ バ ス
						経 営 シ ス テ ム	地 域 シ ス テ ム	社 会 イ ノ ベ ー シ ョ ン					
基礎 経済 論	政治経済学Ⅰ	2	5	前	●				中級	海	公民		1
	政治経済学Ⅱ	2	5	後					中級	海	公民		2
	初級マクロ経済学	2	5	前	●	○	○		基礎	高見	公民		3
	中級ミクロ経済学	4	5	前		○		○	中級	村山			4
	中級マクロ経済学	4	5	後					中級	宇野			5
	応用ミクロ・マクロ経済学セミナー	2	5	前					応用	宇野			6
	現代資本主義論	2	5*	前・集中					応用	非(磯谷)	公民		7
	計量経済学	2	5	前					応用	下田			8
	経済数学	2	5	前		○		○	基礎	中本			9
	経済学史	2	6*	前					中級	田村	公民		
	統計学	2	5	前					基礎	中本	公民		10
	経済統計学	2	6*	後					中級	中本	公民		
比較 経済 論	経済学国際セミナー	2	5	後					中級	柴田		○	11
	海外キャリア・ディベロップメント・ワークショップ	2	5*	前・集中					応用	小笠原			12
	国際貿易論	2	5	前		○			中級	柴田	公民		13
	世界経済論	2	5	後	○				中級	柴田	公民		14
	開発経済論	2	5	前	○				中級	木村			15
	アジア経済発展論	2	5	後		○	○	○	応用	木村	公民		16
	EUの政治経済	2	5	前					応用	デイ	公民	○	17
	グローバル化と政治経済	2	5	後					応用	デイ	公民	○	18
	現代国際関係論	2	5	前・集中	○		○		中級	(非)高山	公民		19
	現代国際関係史	2	5	後・集中			○	○	中級	(非)高山	公民		20
	経済地理学Ⅰ	2	6*	前			○	○	中級	大呂			
	経済地理学Ⅱ	2	6*	後		○	○	○	中級	大呂			
	労働経済論Ⅰ	2	6*	前					中級	未定	公民		
	労働経済論Ⅱ	2	6*	後					中級	未定	公民		
	労使関係論	2	5	後			○	○	応用	石井	公民		21
	西洋経済史	2	5	前	○				中級	市原	公民		22
	日本経済史Ⅰ	2	5	前・集中				○	中級	未定	公民		23
	日本経済史Ⅱ	2	5	前・集中				○	中級	未定	公民		24
経済史	2	5*	後					基礎	市原			25	
日本経済論	2	6*	前・集中					応用	未定				
環境の経済学	2	6*	前・集中					応用	未定	公民			

学科目	授業科目	単 位	開 講 年	実 施 時 期	学 科 基 盤 科 目	副専門科目			レ ベ ル	担 当 者	教 員 免 許 該 当 科 目	グ ロ ー バ ル 科 目	シ ラ バ ス
						経 営 シ ス テ ム	地 域 シ ス テ ム	社 会 イ ノ ベ ー シ ョ ン					
経 済 政 策 論	経済政策論Ⅰ	2	5	前					中級	高見	公民		26
	経済政策論Ⅱ	2	6*	後					中級	高見	公民		
	産業組織論	2	5	後					応用	非(山田)			未掲載 (後日揭示)
	公共経済学	2	5*	後					応用	高見	公民		28
	社会政策	2	5	前			○	○	基礎	石井	公民		29
	セミナー 「働くということと労働組合」	2	5	後					応用	石井・小山			30
	社会保障論	2	5*	前・兼中					中級	非(中澤)	公民		未掲載 (後日揭示)
	日本の社会保障	2	5	前・兼中					中級	非(丹波)	公民		32
	財政学Ⅰ	2	5	前					中級	林	公民		33
	財政学Ⅱ	2	5*	後					中級	林	公民		34
	金融論Ⅰ	2	5*	前		○			中級	小笠原	公民		35
	金融論Ⅱ	2	5*	後					応用	小笠原	公民		36
	国際金融論Ⅰ	2	6*	前		○			中級	小笠原			
	国際金融論Ⅱ	2	6*	後		○			応用	小笠原			
	証券論	2	5	前					中級	金(珍)	公民		37
	証券市場論	2	5	後					応用	金(珍)	公民		38

※経済学科の学科基盤科目4単位については、「基礎経済論」学科目(●)から2単位および

「比較経済論」学科目(○)から2単位を含めなければならない。

※上記「副専門科目」に○がついている学科の学生にとって、左の科目が副専門科目となる。

経済学科の学生が経営システム学科の副専門科目を履修したい場合は、経営システム学科の実施学科課程表を参照し、

経済学科の下に○がついている科目を履修すること。

※開講年に「*」のある科目は隔年開講の予定である。

※担当者欄の(非)は非常勤講師である。

※グローバル科目欄に「○」のある科目は、国際フロンティア教育プログラム・グローバル科目であるため、

全て英語による授業を行う。詳細は、教養教育科目ガイドブックを参照すること。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式				
K132E301		政治経済学 (Political Economy I)				経済学科 経済学科		対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経	前期	木2	氏名 海 大 汎 E-mail dbhae@oita-u.ac.jp 内線 7681						
授業の概要	<p>・テーマ：資本主義的生産様式の成立と展開</p> <p>・概要：本講義では、『資本論』第1部の内容を通じて、資本主義経済の基本構造と形成原理について理解を深めることを目的とする。資本主義経済の理論を学ぶことによって、受講者には、経済現象の法則性を理解し、現代社会の諸問題を把握できる力量の涵養を期待する。</p>											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1 『資本論』第1部の大まかな内容を理解できる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標2 商品・貨幣・資本の内的原理を体系的に把握できる。												
目標3 資本主義的生産様式の成立過程からその運動法則を説明できる。												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	商品とは何か - 商品の2つの要因											
3	商品の価値規定											
4	価値形態と交換過程 - 商品から貨幣へ											
5	貨幣の基本的機能 - 商品流通の契機											
6	貨幣の派生的機能 - 貨幣としての貨幣											
7	貨幣の資本への転化 - 価値増殖の謎											
8	剰余価値の発生メカニズム											
9	絶対的剰余価値の生産											
10	特別剰余価値の生産											
11	相対的剰余価値の生産											
12	生産様式と労働者統合											
13	賃金と雇用											
14	単純再生産と拡大再生産											
15	資本蓄積と相対的過剰人口											
ラ ア:知識の定着・確認 イ:意見の表現・交換 ニ C:応用志向 テ D:知識の活用・創造 ン グ	授業中に小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。				工 夫 そ の 他 の							
時間外学修の内容と時間の目安	<p>準備学修 [15h] 次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。</p> <p>事後学修 [20h] 講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。</p>											
教科書	森田成也(著)『[新編]マルクス経済学再入門 商品・貨幣から独占資本まで 上巻』(2019年)社会評論社。											
参考書	資料を適宜配布します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト×2回	40%										
	学期末レポート	40%										
	授業への参加度	20%										
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K132E301		政治経済学 (Political Economy I)					主専門科目 学科基盤科目	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	2,3,4	経	前期	木2	氏名 海 大 汎 E-mail dbhae@oita-u.ac.jp 内線 7681											
授業の概要	<p>・テーマ：資本主義的生産様式の成立と展開</p> <p>・概要：本講義では、『資本論』第1部の内容を通じて、資本主義経済の基本構造と形成原理について理解を深めることを目的とする。資本主義経済の理論を学ぶことによって、受講者には、経済現象の法則性を理解し、現代社会の諸問題を把握できる力量の涵養を期待する。</p>																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	『資本論』第1部の大まかな内容を理解できる。																
目標2	商品・貨幣・資本の内的原理を体系的に把握できる。																
目標3	資本主義的生産様式の成立過程からその運動法則を説明できる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	商品とは何か - 商品の2つの要因																
3	商品の価値規定																
4	価値形態と交換過程 - 商品から貨幣へ																
5	貨幣の基本的機能 - 商品流通の契機																
6	貨幣の派生的機能 - 貨幣としての貨幣																
7	貨幣の資本への転化 - 価値増殖の謎																
8	剰余価値の発生メカニズム																
9	絶対的剰余価値の生産																
10	特別剰余価値の生産																
11	相対的剰余価値の生産																
12	生産様式と労働者統合																
13	賃金と雇用																
14	単純再生産と拡大再生産																
15	資本蓄積と相対的過剰人口																
ラ ア:知識の定着・確認 イ:意見の表現・交換 ニ C:応用志向 テ D:知識の活用・創造 ン グ	授業中に小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。										工 夫 そ の 他 の						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	[15h] 次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。															
	事後学修	[20h] 講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。															
教科書	森田成也(著)『[新編]マルクス経済学再入門 商品・貨幣から独占資本まで 上巻』(2019年)社会評論社。																
参考書	資料を適宜配布します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	小テスト×2回	40%															
	学期末レポート	40%															
	授業への参加度	20%															
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式				
K142E401		政治経済学 (Political Economy II)				経済学科 経済学科						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3	経	後期	木2	氏名 海 大 汎 E-mail dbhae@oita-u.ac.jp 内線 7681						
授業の概要	<p>・テーマ：資本主義経済の構造と動態</p> <p>・概要：本講義では、『資本論』第2部・第3部の内容を通じて、資本の運動の全体像を把握するとともに、その総体として導き出される資本主義経済の諸法則について理解を深めることを目的とする。資本主義経済の理論を学ぶことによって、受講者には、経済現象の法則性を理解し、現代社会の諸問題を把握できる力量の涵養を期待する。</p>											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1 『資本論』第2部・第3部の大まかな内容を理解できる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標2 資本主義経済の運動法則を体系的に把握できる。												
目標3 資本主義経済の内的傾向と現代社会の諸問題との関係を説明できる。												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	個別資本の循環											
3	運輸と通信											
4	流通費と実現利潤											
5	個別資本の回転											
6	社会的総資本の再生産 - 単純再生産											
7	社会的総資本の再生産 - 蓄積と拡大再生産											
8	資本利潤と利潤率											
9	標準利潤率と生産価格											
10	利潤率の傾向的低下と長期波動											
11	商業資本と商業利潤											
12	利子生み資本と信用											
13	株式会社と法人資本											
14	土地所有と地代取得資本											
15	独占資本											
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業中に小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。				工夫	その他の					
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	[15h] 次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。										
	事後学修	[20h] 講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。										
教科書	森田成也(著)『[新編]マルクス経済学再入門 商品・貨幣から独占資本まで 下巻』(2019年)社会評論社。											
参考書	資料を適宜配布します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト×2回	40%										
	学期末レポート	40%										
	授業への参加度	20%										
注意事項												
備考	本講義を受講するにあたって、前もって「政治経済学」の受講・学習を進めます。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K131E301	初級マクロ経済学(Introduction to Macroeconomics)					経済学科 経済学科	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	2	経済学部	前期	金1	氏名 高見博之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674											
授業の概要	はじめて経済学を学ぶ学生が、経済学、特にマクロ経済学の基礎的な知識や考え方を理解し、専門分野を学習するときに経済学を適用できる基礎力を修得することを目標とします。また、現実の経済問題について論理的に考える力をつけることをねらいとします。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	マクロ経済学の基本的な概念を説明できる。																
目標2	乗数効果を説明できる。																
目標3	財・サービス市場における需要と供給を説明できる。																
目標4	資産(貨幣)市場における需要と供給を説明できる。																
目標5	経済モデルに基づき、財政金融政策の効果について説明できる。																
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	マクロ経済学とは																
2	マクロ経済学のとらえ方(1) 貿易・為替レートとマクロ経済の波及効果																
3	マクロ経済学のとらえ方(2) GDPとは																
4	マクロ経済における需要と供給																
5	財・サービス市場：有効需要と乗数メカニズム																
6	資産(貨幣)市場(1) 貨幣供給と信用乗数																
7	資産(貨幣)市場(2) 貨幣需要と利子率																
8	まとめ(1)																
9	財政政策の基本構造(1) 乗数																
10	財政政策の基本構造(2) 公債の負担の問題																
11	財政・金融政策とマクロ経済：政策目標・政策手段と貿易問題																
12	財政・金融政策のメカニズム(1) 金融政策と有効需要																
13	財政・金融政策のメカニズム(2) 財政政策とクラウディング・アウト効果																
14	財政・金融政策のメカニズム(3) IS-LM分析と財政・金融政策																
15	まとめ(2)																
ラーニング	A:知識の定着・確認	学生の理解を確認するため、毎回、小レポートを設定します。小レポートには、質問欄を設定し、質問があった場合には次回の講義の最初に回答をします。					工夫	その他の	各種外部試験(経済学検定試験や公務員試験など)を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。								
時間外学習の内容と時間の目安	準備	教科書の内容を確認すること(7h)。															
	学修	マクロ経済学の考え方を意識しながら日本経済新聞を読むこと(7h)。															
	事後	講義を基にした教科書、小テストの振り返り(15h)。															
	学修																
教科書	『マクロ経済学 第2版』伊藤元重著(日本評論社)																
参考書	『マクロ経済学・入門 第5版』福田慎一 照山博司著(有斐閣アルマ), 『マンキュー マクロ経済学 入門篇 第4版』N.G.マンキュー著(東洋経済新報社), など。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	期末試験	70%															
	小レポート	30%															
注意事項	詳細な注意事項等は、第1回目の講義で説明します。																
備考	連絡等にMoodleを活用します。定期的に確認してください。																
リンク	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K142E402	中級ミクロ経済学(Intermediate Microeconomics)					経済学科 経済学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	4	2,3,4	経済学部	前期	月3,火3	氏名 村山悠 E-mail murayamayu@oita-u.ac.jp 内線 7716										
授業の概要	この講義の目的は、経済学の最も基本的な枠組みがまとめられたミクロ経済学について、中級レベルの内容を理解することである。主に、家計の消費行動、企業の生産の決定、市場と均衡、独占・寡占などについて学ぶ。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	経済学検定試験EREレベルの問題を解けるようになる。															
目標2																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	ミクロ経済学とは何か?ミクロ経済学で使う数学について															
2	需要と供給(1) 需要曲線															
3	需要と供給(2) 供給曲線															
4	消費の理論(1) 効用関数と予算制約式															
5	消費の理論(2) 効用最大化問題															
6	消費の理論(3) 所得効果と代替効果															
7	消費理論の応用(1) 労働供給															
8	消費理論の応用(2) 消費と貯蓄															
9	消費理論の応用(3) 不確実性															
10	消費理論の応用(4) 顕示選好の理論															
11	企業と費用(1) 等生産量曲線と等費用曲線															
12	企業と費用(2) 費用曲線															
13	企業と費用(3) 短期と長期の費用曲線															
14	生産の決定(1) 利潤最大化問題															
15	生産の決定(2) 供給曲線															
16	市場と均衡(1) 完全競争															
17	市場と均衡(2) 市場価格の調整メカニズム															
18	市場と均衡(3) 市場取引の利益															
19	市場と均衡(4) 政策介入のコスト															
20	市場と均衡(5) 資源配分の効率性															
21	市場と均衡(6) 厚生経済学の基本定理															
22	独占(1) 独占企業の行動															
23	独占(2) 独占と市場															
24	独占(3) 自然独占と規制															
25	独占(4) 参入をめぐる競争															
26	寡占(1) 寡占とは															
27	寡占(2) クールノー・モデル															
28	寡占(3) カルテル															
29	寡占(4) シュタッケルベルグ・モデル															
30	まとめ															
ラ イ ク ニ テ ン イ グ プ	A:知識の定着・確認	レポート課題による自己評価				工 夫	そ の 他 の	Moodleの活用								
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	講義資料を読むなどの予習(30h)														
	事後学修	レポート課題・講義内容などの復習(30h)														
教科書	教科書は指定しない。講義資料を使う。															
参考書	講義中に紹介する。															

成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
		小テスト・レポート	20%										
		中間試験	40%										
		期末試験	40%										
注意事項	高校レベルの数学，特に微分をできるようにしておくこと。												
備考													
リンク													
	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K142E403	中級マクロ経済学(Intermediate Macroeconomics)					経済学科 経済学科	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	4	2,3,4	経	後	火3,木4	氏名 宇野真人 E-mail muno@oita-u.ac.jp 内線 7676											
授業の概要	経済活動の中で重要なキーワードがある。それは所得・利子率・為替レートだ。それらは相互に影響し合っている。その関係を理解してもらうことがねらいである。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	公務員試験や経済学検定試験など各種試験レベルの問題を解く力をつけることが目標です。																
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	GDPの成り立ち																
3	総需要と総供給(1)																
4	乗数分析(1)-政府支出乗数-投資乗数-貿易乗数																
5	乗数分析(2)-均衡財政乗数-租税乗数																
6	投資と利子率																
7	IS曲線の成り立ちと意味																
8	実質利子率と名目利子率																
9	貨幣の需要と供給と利子率の決まり方																
10	貨幣需要																
11	貨幣供給																
12	金融政策と利子率																
13	LM曲線の成り立ちと意味																
14	IS-LM分析と財政政策が所得と利子率に与える効果																
15	IS-LM分析と金融政策が所得と利子率に与える効果																
16	中間																
17	国際収支について																
18	変動為替相場制と固定為替相場制																
19	マンデルフレミングモデル																
20	マンデルフレミングモデルと財政金融政策の効果																
21	総需要総供給分析																
22	総需要曲線の導出																
23	総供給曲線の導出																
24	政策と物価変動																
25	消費関数の理論(1)																
26	消費関数の理論(2)																
27	消費関数の理論(3)																
28	産業連関分析(1)基礎																
29	産業連関分析(2)基礎																
30	産業連関分析(3)活用																
ラーニングチェックポイント	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義終わりに10分程度の小テストを実施し理解度を高める工夫を行っている。				工夫 その他											
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修 事後 学修	本講義で配布する教科書以外にもマクロ経済学の本に触れておくとう理解が早まります。講義前に2h 小テストや教科書にある練習問題の習った箇所について繰り返し解く。講義後に2h															
教科書	開始時に配布 諸事情で配布については初回に間に合わないことがあります。																
参考書	ガイダンス時に提示																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K143E401	応用ミクロ・マクロ経済学セミナー(Microeconomics and Macroeconomics study)					経済学科 経済学科	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3,4	経済学部	前期	火5	氏名 宇野 真人 E-mail muno@oita-u.ac.jp 内線 7676											
授業の概要	ミクロ・マクロ経済学の練習問題を解くことにより、ミクロ・マクロ経済学の習熟度を高めることをねらいとする。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	経済学検定試験EREに出題される問題を解けるようになる。																
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	消費者行動(1)																
2	消費者行動(2)																
3	消費者行動(3)																
4	企業行動(1)																
5	企業行動(2)																
6	企業行動(3)																
7	市場均衡分析(1)																
8	市場均衡分析(2)																
9	財市場分析																
10	乗数																
11	IS曲線																
12	LM曲線																
13	IS-LM分析																
14	総需要総供給分析																
15	経済成長理論																
ラーニング	A:知識の定着・確認	練習問題・小テストを解く					工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	ミクロ・マクロ経済学の復習(15h)															
	事後学修	練習問題の復習(30h)															
教科書	教科書は初回授業で指定する。																
参考書	『経済学検定試験 ERE問題集』経済法令研究会																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	小テスト	20%															
	期末試験	30%															
	経済学検定試験ERE	50%															
注意事項	7月に行われる経済学検定試験EREミクロ・マクロを必ず受験してもらいます。																
備考	Moodleを活用する。																
リンク	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K143E402		現代資本主義論(Theory of Modern Capitalism)					経済学科 経済学科											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	3,4	経	集中(夏学期)	他	氏名 磯谷 明德 (下関市立大学経済学部・経済学研究所)												
						E-mail isogai-a@shimonoseki-cu.ac.jp 内線 083-254-8702(研究室)												
<p>授業の概要</p> <p>「制度が重要である」という認識は、20世紀末からの現代経済学における多くの研究者たちによって共有されてきたものである。この共通の認識の下、研究者たちによる制度の「再」発見を通じて、制度経済学は新たな再生を遂げた。この再生から、新制度派経済学や現代制度派経済学、比較制度分析、企業と組織の経済学、制度と進化の経済理論など、多様なアプローチが登場した。</p> <p>本講義では、20世紀末からの制度経済学の多様な展開から得られる知見を踏まえた上で、制度経済学の基礎的枠組みを、「貨幣」、「労働」、「動学」という3つの視点から理解し学習するとともに、それを現代資本主義の分析に応用するための理論的・実証的枠組みを学ぶことを目的とする。</p>																		
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1 現代経済の諸問題の理解とその対処のための政策立案にとって、制度が重要であることを理解する。																		
目標2 現代資本主義を理解するための現代の経済学のメニューは、新古典派経済学とは異なり多様であることを理解する。																		
目標3 新古典派マクロ経済学とは異なるマクロ経済動学である制度動学の理論的枠組みの基礎を理解する。																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 イントロダクション：社会経済システムへの制度論アプローチ																		
2 社会経済システムへの制度論アプローチ																		
3 社会経済システムへの制度論アプローチ：資本主義の多様生論																		
4 市場への制度論アプローチ：制度としての貨幣・市場/市場システムの制度的特徴																		
5 市場への制度論アプローチ：寡占市場と価格の硬直性/価格調整と数量調整																		
6 貨幣的生産の制度分析：有効需要論の貨幣的基礎/貨幣需要と流動性選好																		
7 貨幣的生産の制度分析：内生的貨幣供給/金融システムの不安定性																		
8 労働市場と賃金・雇用：2つの労働市場像/賃金と雇用の決定																		
9 労働市場と賃金・雇用：雇用システムの制度的多様性																		
10 企業への制度論アプローチ：新古典派企業像を超えて/企業組織への2つのアプローチ																		
11 企業への制度論アプローチ：株式会社と企業統治/雇用システムと企業統治の制度的補完性																		
12 制度動学の基礎：短期分析																		
13 制度動学の基礎：長期分析																		
14 日本経済経済分析への応用：アベノミクスの展開とその誤算																		
15 日本経済経済分析への応用：「新しい資本主義」について																		
ラ ッ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	すべての回の講義においてミニッツペーパーを提出してもらう。				工 夫	そ の 他 の											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教科書や参考文献等を用いた事前の予習。1時間×15回 15時間																
	事後学修	配布資料や講義ノート等を活用した講義のテーマと内容の復習と再確認。1時間×15回 15時間																
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・植村博恭・磯谷明德・海老塚明『新版 社会経済システムの制度分析』名古屋大学出版会、2007年。 ・宇仁宏幸・坂口明義・遠山弘徳・鍋島直樹『入門 社会経済学』(第2版)ナカニシヤ出版、2010年。 																	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・磯谷明德『制度経済学のフロンティア』(第2版)ミネルヴァ書房、2007年。 ・植村博恭・山田鋭夫・宇仁宏幸・磯谷明德編『転換期のアジア資本主義』藤原書店、2014年。 ・磯谷明德・植村博恭編『制度と進化の政治経済学』日本経済評論社、2022年。 																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	ミニッツペーパーの提出	40%																
	最終試験	60%																
注意事項																		
備考																		
リンク	講義で使用するPPT資料についてはWeb上で公開する予定である(準備中)。																	
	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K143E403	計量経済学(Econometrics)					経済学科 経済学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	3,4	経	前期	木2	氏名 下田憲雄 E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683										
授業の概要	計量経済学の大きな役割は、実際に観察される経済現象・事象からのフィードバックを通じて経済理論や経済の現状を検証し、理論の適合性や政策の実施やその効果を判断することです。したがって、講義では、経済事象の数値データを収集し、それらを解析することからスタートし、経済理論の仮説検証を行う方法について勉強します。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	分析の対象となるデータの様々な特徴や性質、データ間の関係を調べることができる。															
目標2	線形回帰モデルの特徴を説明できる。															
目標3	エクセル等を用いて、線形回帰モデルを使って簡単なマクロ経済モデルの検証ができる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	統計学から・・・記述統計と確率統計															
2	統計学から・・・標本分布と仮説検定															
3	計量経済学の位置付け															
4	時系列データについて															
5	経済学における時系列データ処理															
6	統計処理としてのエクセルの利用方法 1															
7	統計処理としてのエクセルの利用方法 2															
8	最小 2 乗法の基礎 1															
9	最小 2 乗法の基礎 2															
10	単回帰分析の基礎 1															
11	単回帰分析の基礎 2															
12	回帰分析の演習 1															
13	回帰分析の演習 2															
14	マクロ理論からの例を推計															
15	まとめ															
ラ ブ ニ テ ン イ グ 	A:知識の定着・確認	学生の理解を確認するため、定期的に課題の提出を求める				工 夫	そ の 他 の									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教科書、配付資料や参考文献等を用いて予習する(30h)														
	事後学修	講義内容をノート、教科書、配付資料等を用いて復習する(15h)														
教科書	『入門 計量経済学』山本拓・竹内明香															
参考書	『計量経済学』：山本拓 『初歩からの計量経済学』：白砂堤津耶 『計量経済学』：森棟公夫															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10				
	定期試験	70%														
	宿題・レポート等の提出物	30%														
注意事項																
備考	関連科目：統計学、マクロ経済学など															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K141E401		経済数学(Mathematics for Economics)					経済学科 経済学科		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択	2	1,2,3,4	経済学部	前期	水2	氏名 中本 裕哉 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677													
授業の概要	経済理論の理解や経済分析には数学が必要不可欠である。本講義では経済学を学ぶ上で必要となる入門的な数学(主に微分積分、線形代数)について、多くの練習問題や小テストを解いて数学スキルの修得を目指す。また、数学スキルと経済分析のつながりを理解することで、経済学を学ぶための大きな一歩を踏み出すことを目的とする。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 経済理論の理解や経済分析に必要なとなる入門的な数学スキルを修得する。																			
目標2																			
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 ガイダンス																			
2 関数																			
3 均衡分析																			
4 指数・対数																			
5 数列																			
6 導関数																			
7 1変数の微分																			
8 中間試験																			
9 多変数の微分																			
10 偏微分																			
11 全微分																			
12 最適化																			
13 等式制約のもとでの最適化																			
14 ベクトルと行列																			
15 行列演算																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。					工夫	その他の											
	B:意見の表現・交換																		
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)																	
	事後	授業で扱う例題、小テストで復習する。(20 h)																	
教科書	教科書を指定しない																		
参考書	A.C.チャン・K.ウエインライト『現代経済学の数学基礎 上 第4版』彩流社, 2020年																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	小テスト	30%																	
	中間試験	30%																	
	期末試験	40%																	
	小テスト、中間試験、期末試験から総合的に評価する。																		
注意事項																			
備考																			
リンク																			
	URL																		

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K141E402	統計学(Statistics)					経済学科 経済学科	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1,2,3,4	経	前期	金2	氏名 中本 裕哉 E-mail y-nakamoto@oita-u.ac.jp 内線 7677											
授業の概要	統計学は「科学の文法である」と表現されるように、今日の科学において重要な役割を果たしている。また、私たちの身の回りにも統計学が関わっている物事（例えば、生命保険料の計算、選挙結果の速報、ワクチンの効果の判定など）で溢れている。本講義では、統計学の基礎を学び、様々な統計が出るまでのプロセスを正しく理解し、現実社会における経済事象を公正かつ適切に分析・解釈することを目的とする。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	記述統計および確率論と確率分布の基礎を修得する。																
目標2	推定や仮説検定の基礎を修得する。																
目標3	統計的手法を用いて、現実社会における経済事象の分析とその結果の考察ができる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	度数分布とヒストグラム																
3	データの整理I：平均、分散、標準偏差																
4	データの整理II：相関係数																
5	確率																
6	確率変数I：確率分布																
7	確率変数II：確率変数の期待値と分散																
8	様々な確率分布																
9	母集団と標本																
10	区間推定I：母分散既知																
11	区間推定II：母分散未知																
12	仮説検定I：両側検定																
13	仮説検定II：片側検定																
14	回帰分析																
15	まとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回、講義の終わりに小テストを実施する。					工	その									
イ	B:意見の表現・交換						夫	他									
ニ	C:応用志向																
テ	D:知識の活用・創造																
準備学修	参考書などを必要に応じて予習する。(15h)																
事後学修	授業で扱う例題、小テスト、教科書の章末問題で復習する。(20 h)																
教科書	教科書を指定しない																
参考書	小島寛之『統計学入門』ダイヤモンド社、2006年、森棟公夫ほか著『統計学(改訂版)』有斐閣、2015年																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	小テスト	30%															
	レポート課題	30%															
	期末試験	40%															
小テスト、レポート課題、期末試験から総合的に評価する。																	
注意事項	小テストや試験に平方根()の計算ができる電卓が必要です。試験では電卓機能を持つ携帯端末(スマートフォンなど)の使用は不可とします。																
備考																	
リンク	統計WEB統計学の時間(下記URL)を準備学修、事後学修、試験勉強に活用すると良い。 URL https://bellcurve.jp/statistics/course/																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K142E406	経済学国際セミナー(International Seminar on the Global and Japanese Economy)					経済学科 経済学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経	前期	金2	氏名 柴田 茂紀(経) E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715						
授業の概要	The aim of this course is to give students a series of basic knowledge about global economies.											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	Obtained basic knowledge regarding globalization											
目標2	Become capable at evaluating economic policies in this domain.											
目標3	Improved their ability to participate in discussions.											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	Introduction											
2	The concepts of global economy											
3	Selected case studies of global economies (article 1)											
4	Selected case studies of global economies (article 2)											
5	Selected case studies of global economies (article 3)											
6	Selected case studies of global economies (article 4)											
7	Global problems (article 5)											
8	Global problems (article 6)											
9	Global problems (article 7)											
10	Global problems (article 8)											
11	Global problems (article 9)											
12	The relationship between Japan and global economy (article 10)											
13	The relationship between Japan and global economy (article 11)											
14	The relationship between Japan and global economy (article 12)											
15	Conclusion											
ラーニング	A:知識の定着・確認	Students need to read assignments before coming to class.				工夫	その他の					
ニテ	B:意見の表現・交換											
ンイ	C:応用志向											
グ	D:知識の活用・創造											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	Read the appropriate material before coming to class(15h)										
	事後学修	Homeworks to cover this class(15h)										
教科書	To be provided by lecturer											
参考書	To be provided by lecturer											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	presentations	70%										
	reports	30%										
注意事項	This course will consist of lectures, discussions and presentations.											
備考	この授業は留学生が参加する可能性があり、すべて英語で実施します。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K143E404	海外キャリア・ディベロップメント・ワークショップ(Overseas Career Development Workshop)					経済学科 経済学科						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経済学部	集中	他	氏名 小笠原 悟 E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713						
授業の概要	国際金融論、世界経済論および開発経済論などの専門科目を履修した学生を対象とする海外での学習です。前期終了後の集中講義とし、海外訪問は2月中旬となります。今回は台湾に訪問する計画です。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	海外での研修を通じて、より実践的な知識を習得する											
目標2	将来のキャリア形成に役立てる											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	シンガポールの曙											
3	イギリスの植民時代											
4	日本による占領時代											
5	自立国家の模索											
6	リー・クアンユー時代											
7	ゴー・チョクトン時代											
8	リー・シェンロン時代											
9	シンガポールとは何か											
10	シンガポールの経済構造と政策											
11	シンガポールの金融制度と国際金融センターとしての位置づけ											
12	シンガポールと日本の関係											
13	シンガポールの日系企業											
14	シンガポールが抱える課題											
15	まとめ											
ラーニング	A:知識の定着・確認	集中講義で訪問先について事前学習し、2月中旬に現地を訪問します。集中講義ではシンガポールの歴史・政治・経済・対外関係について学ぶとともに、同国が抱える課題について、グループで調査・分析し、発表します。				工夫 その他	ドキュメンタリー映画も取り入れ、シンガポールについて理解を深めます。					
時間外学習の内容と時間の目安	準備	テキストを読む(15h)										
	学修	スムーズにグループワークが進むように、事前準備(資料の収集、データの分析)をする(15h)。										
	事後	プログラム終了後のレポートの執筆(15h)。										
	学修											
教科書	岩崎 育夫『シンガポールの歴史』中公新書,2018, 860円+税											
参考書	田村 慶子(編)『シンガポールを知るための65章』明石書店											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業中の態度	25%										
	グループワークへの貢献度	25%										
	帰国後のレポート提出	50%										
注意事項	初日から輪読するため、授業開始前に担当箇所を指示するので、事前にテキスト{『シンガポールの歴史』}を購入しておくこと。プログラムに参加する条件としよて、国際金融論、世界経済論、開発経済論など専門科目を履修していること。状況によって渡航中止を含め、内容が異なる場合											
備考	久保奨学金からの支援があります。											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式			
K142E407		国際貿易論(International Trade Theory)					経済学科 経済学科		対面			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経	前期	火3	氏名 柴田 茂紀 E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715						
授業の概要	1) 国際貿易の考え方や現状についての理解を深める。 2) 「現実」を考えるための「理論」を学ぶ。 3) 貿易という側面から、現在の「国際経済を見る眼」を養う。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	国際貿易が過去から現在まで、どのように展開してきたのか理解する。											
目標2	国際貿易理論の意味と背景、その現実性を理解する。											
目標3	国際貿易に関するニュースの意味や背景がわかり、自分なりの意見を持てるようになることが最終的な目的である。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	国際貿易論の範囲											
2	国際貿易論の基礎理論1(絶対優位と比較優位)											
3	国際貿易論の基礎理論2(ヘクシャー=オリーン・モデルとその後の展開)											
4	国際貿易の歴史と理論											
5	国際貿易の歴史と制度											
6	現在の国際貿易システム											
7	進展する地域間貿易											
8	中間のまとめとテスト											
9	国際収支とは何か											
10	国際収支から見えるもの											
11	為替レートと国際貿易との関係											
12	直接投資の考え方											
13	直接投資と国際貿易との関係											
14	事例紹介											
15	まとめ											
ラーニング チェック ポイント グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	・授業終了時に、授業内容についての小テストを毎回実施します。 ・授業終了後に、大学のオンライン学習システム(Moodle)で補足事項をまとめておきます。自習の際、利用して下さい。				工夫 その 他の	・欠席した場合は、授業支援システム(moodle)で提示した問題を通じて自習する。					
時間外学習 の内容と時 間の目安	準備 学修	必要に応じて、授業支援システム(moodle)で提示(5h)										
	事後 学修	授業で学んだことを活用し、授業支援システム(moodle)で提示した問題を通じて復習する。(25h)										
教科書	配布物に基づいて授業を進める。											
参考書	必要に応じて指示する。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	平常点	60%										
	期末試験(またはレポート)	40%										
注意事項	1) 欠席回数に応じて課題がある(遅れを取り戻す措置)。 2) ほぼ毎回、小テストを実施する。											
備考	オンライン授業の場合は、授業前に配布資料を印刷しておくこと											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K132E302		世界経済論(World Economy)					経済学科 経済学科		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択	2	2,3,4	経	後期	火3	氏名 柴田 茂紀 E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715													
授業の概要	1) 世界経済を理解する上での基礎理論を学ぶ(理論分析)。 2) 世界経済の構造や現状についての理解を深める(現状分析)。 3) 幅広い観点から「世界経済を見る眼」を養う(多角分析)。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 世界経済の展開を理解する。																			
目標2 近年の世界経済の特徴を理解する。																			
目標3 世界経済に関するニュースの意味や背景がわかり、自分なりの意見を持てるようになることが最終的な目的である。																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 世界経済論の分析対象																			
2 グローバル化の特色と変化																			
3 技術革新とグローバル化																			
4 情報化とグローバル化																			
5 経済格差とグローバル化																			
6 「コーヒー」から考えるグローバル化																			
7 フェアトレードの課題と可能性																			
8 「カネ」の移動から考えるグローバル化																			
9 為替レートの考え方(円高と円安、名目為替レートと実効為替レート)																			
10 為替レートの基礎理論(購買力平価とアセットアプローチ)																			
11 為替制度(変動相場制と固定相場制)																			
12 国際経済統計の分析方法																			
13 「Tシャツ」から考えるグローバル化																			
14 グローバル経済の事例紹介																			
15 まとめ																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	・授業終了時に、授業内容についての小テストを毎回実施します。 ・授業終了後に、大学のオンライン学習システム(Moodle)で補足事項をまとめておきます。自習の際、利用して下さい。					工夫	その他の	・欠席した場合は、オンライン学習システム(moodle)を通じて該当部分を自習することになります。										
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	必要に応じて、授業支援システム(moodle)で提示(5h)																	
	事後学修	授業で学んだことを活用し、オンライン学習システム(moodle)で提示した問題を通じて復習する。(25h)																	
教科書	配布資料に基づいて授業を進める。																		
参考書	授業を通じて紹介する。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	平常点	60%																	
	期末試験(またはレポート)	40%																	
新型コロナウイルスの状況次第で期末レポートになる可能性もあります。																			
注意事項	1) 理由に関係なく、欠席回数に応じて課題がある(遅れを取り戻す措置)。 2) ほぼ毎回、小テストを実施する。																		
備考	・オンライン授業の場合は、授業前に配布資料を印刷しておくこと																		
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K132E303		開発経済論(Development Economics)				経済学科 経済学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2,3	経	前期	金4	氏名 木村 雄一 E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689										
授業の概要	2019年にノーベル経済学賞を受賞した開発ミクロ経済学のスター研究者2人による研究サーベイ『貧乏人の経済学』から、貧困の原因と低所得層の厚生改善について、最近20年ほどに蓄積された新しい知見を学ぶ。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 貧困の原因と貧困削減について、1) 各トピックについて重要な問題設定を把握する。																
目標2 2) 実証ミクロ経済学の実証研究の方法に触れる。																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 Banerjee and Duflo 1章 貧困の罠と永続的貧困、マイクロデータ と実験経済学																
2 B-D 2章 栄養の貧困の罠? (1): 栄養摂取の不足による貧困の罠は永続的貧困の原因になっているか																
3 B-D 2章 栄養の貧困の罠? (2): 栄養摂取の不足による貧困の罠は永続的貧困の原因になっているか																
4 教育投資 (1) 子どもへの教育投資はどのように決まるか: 教育のミクロ経済学																
5 教育投資 (2) キュメンタリー『パーミヤンの少年』教育投資と資金 制約																
6 教育投資 (3) 教育のエリートバイアス; 教育投資の男女差はなぜ生まれるか? Banerjee and Duflo スライド1																
7 教育投資 (4): 教育のエリートバイアス; 教育投資の男女差はなぜ生まれるか? Duflo and Duflo スライド2																
8 ディスカッション																
9 女性の労働供給と社会的地位 (1): Robert Jensen QJE 2012																
10 女性の労働供給と社会的地位 (2): Robert Jensen QJE 2012																
11 女性の労働供給と社会的地位 (3): The Economist (July 7th 2018) How India Fails Its Women.																
12 B-D 5章 出産選択と所得 (1): 子沢山が低所得の原因になっているか?																
13 B-D 5章 出産選択と所得 (2): 子沢山が低所得の原因になっているか?																
14 B-D 5章 出産選択と所得 (3): 子沢山が低所得の原因になっているか?																
15 ディスカッション																
ラーニング	A:知識の定着・確認	Moodle コメント欄に、受講者は基本的に全員が毎回、講義の議論内容に関する質問やコメントを記入する。次回の講義でフィードバックし、議論の発展を図る。				工夫	その他の									
ラーニング	B:意見の表現・交換															
ラーニング	C:応用志向															
ラーニング	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備	教材の該当箇所を事前に読むことを推奨する(15h)。														
時間外学習の内容と時間の目安	事後	当該箇所の復習、関連文献の内容の理解(15h)、期末試験の内容準備(15h)。														
教科書	【教科書】アビジット・バナジー、エスター・デュフロ 2011『貧乏人の経済学: もう一度貧困を根っこから考える』みすず書房。(Abijit Banerjee and Esther Duflo 2009. Poor Economics: A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty. PublicAffairs, Paper back / Kindle)															
参考書	The Economist "Indian schools: Now make sure they can study" (June 10th 2017). "How india fails its women?" (July 7th 2018) Robert Jensen 2012, "Do Labor Market Opportunities Affect Young Women's Work and Family Decisions?" Quarterly Journal of Economics.															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	期末試験。	90%														
	質問、コメントにボーナススコアが付与される	10%														
出席要件を適用する。基準を満たした受講者が期末試験を受けることができる。																
注意事項																
備考	教材は全て pdf を Moodle で配布する。															
リンク																
	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K143E405		アジア経済発展論(Economic Development in Asia)				経済学科 経済学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	3,4	経	後期	金4	氏名 木村 雄一 E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689									
授業の概要	世界に豊かな地域と貧しい地域があるのは何故か、という大問題に対する探求は、この10年ほど、伝統的な経済学の範疇(成長理論と実証、貿易・産業立地の理論)を飛び越え、政治学、経済史、文化形成など、社会科学のあらゆる分野・トピックにまたがる「制度分析」として大きな発展を見せている。制度分析の最新の知見を見渡すことで、現在の先進国が16-19世紀に現在の先進国が辿った制度移行プロセスによって経済成長を達成できた理由、サブサハラ・アフリカや北朝鮮、西アジアなど、現在の貧困地域が貧困である理由について探求する。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	経済発展と政治制度・経済制度、政治体制との関係、制度形成や制度が変化するメカニズムについて、論点を把握すること。														
目標2	明確な問題意識を持ち、論理的に考えられるようになること。														
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1 問題設定：世界の所得水準分布															
2 厚生評価の基準、社会厚生と所得分配															
3 制度分析：制度の経済学 戸堂9章															
4 制度分析：制度の経済学 戸堂10章															
5 経済制度形成と経済的繁栄-停滞の地域差 Acemoglu and Robinson 3章															
6 経済制度形成と経済的繁栄-停滞の地域差 Acemoglu and Robinson 4章															
7 市場アクセスと政治制度形成 Acemoglu et al. 2005															
8 国家秩序、法の支配はどのように形成されるのか：North et al. 2009															
9 東アジアの奇跡(台湾、韓国、シンガポール、中国) 20世紀															
10 日本帝国と東アジアの成長、開発独裁、民主化(台湾、韓国、中国)															
11 アフリカの停滞はなぜ起きたか？															
12 イギリス帝国の支配は南アジアの成長にどう影響したか？															
13 「運命の逆転」はなぜ起きたか？ オスマン帝国崩壊															
14 国家秩序の崩壊、経済的に停滞はなぜ起きるか？ 中東															
15 論点整理：民主、独裁・国家秩序、繁栄と停滞の地域差はなぜ起きるか？															
ラーニング	A:知識の定着・確認	参加者は、基本的に全員が毎回、Moodle コメント欄に、講義の議論内容に関する質問やコメントを記入する。次回の講義でフィードバックし、理解の共有、論点整理に役立て、論点の発見や議論の発展を図る。				工夫	その								
	B:意見の表現・交換						他								
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学習の内容と時間の目安	準備	教科書は事前に読むことを推奨する(15h)													
	事後	当該箇所の復習、関連文献の内容理解(15h)、試験解答の準備(15h)													
教科書	Acemoglu and Robinson 2012. Why Nations Fail? The Origins of Power, Prosperity, and Poverty. New York: Crown Publishers. (鬼澤 忍訳『国家はなぜ衰退するのか：権力・繁栄・貧困の起源』.) 戸堂康之. 2021. 『開発経済学入門 第2版』新世社 9,10章.														
参考書	Douglas C. North. et al. 2009. 『暴力と社会秩序：制度の歴史学のために』みすず書房, 2,6章. 吉田淳 2020. アフリカ経済の真実 資源開発と紛争の論理. ちくま新書. Nathan Nunn 2008. "Long-term Effects of Africa's Slave Trades." Quarterly Journal of Economics.														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末試験	90%													
	コメント・質問にボーナススコアが付与される	10%													
出席要件を適用する。基準を満たした受講者が期末試験を受けることができる。															
注意事項	(参考書つき) [国家・政治体制形成]														
備考															
リンク	参考文献リスト Dropboxリンク URL http://bit.ly/3mbuC5g														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) EUの政治経済(Politics and Economics in EU)					区分・【新主題】/(分野) 経済学科 経済学科		授業形式 対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		1・2・3・4	教・医・理工 ・福	前期	木3	氏名 デイ スティーブン(経) E-mail sriday@oita-u.ac.jp 内線 6676												
授業の概要	The goal of this module is to provide learners with: an in-depth understanding of the historical and contemporary development of the European Union, its key institutions, a selection of EU policies, and the process and impact of Brexit. At a time when the EU is facing multiple challenges, within and beyond its borders, this class will also seek to uncover the reasons behind these challenges.																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	Build up a knowledge and understanding of the EU																	
目標2	Facilitate an ability to critically discuss and evaluate the process of European integration																	
目標3	Understand why the EU faces a myriad of challenges and how it deals with those challenges																	
目標4	Understand and evaluate the Brexit process																	
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	Introductory overview																	
2	The importance of critical thinking																	
3	What is the EU? Political dynamics																	
4	What is the EU? Legal dynamics																	
5	Historical background - key events prior to WWII																	
6	Historical background - key events post-1945																	
7	The integration process - from an FTA to a Common Market																	
8	The integration process - is the EU heading towards political union?																	
9	EU integration - the academic debate																	
10	Case Study - EU citizenship - thinking about identity																	
11	Case Study - EU citizenship - the significance of common symbols and common values																	
12	Case Study - European parliamentary elections																	
13	Case Study - European Political Parties (Europarties)																	
14	Case Study - Remembering Brexit																	
15	Where is the EU heading? Relations with the UK and recalcitrant member states																	
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluations of various types of media reports.					工 夫 そ の 他 の	Students will be expected to keep a class log. 今日学んだこと 内容の概略、感想、疑問に思ったことなど What you learned today; overview of class; impressions; issues you wondered about										
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修	(30 hours) - Please review preparatory materials prior to the class. This will include reading newspaper/magazine articles and listening to MP3 files in order to build up your background knowledge of European history and EU affairs.																
	事後 学修	(15 hours) - Update the class log. Check related documents. Re-Watch and review the news/documentary programmes highlighted in class.																
教科書	For beginners - John Pinder and Simon Usherwood (2018), The European Union: a very short introduction, (4th edition) Oxford: Oxford University Press. EU[第4版]: 欧州統合の現在 - 創元社 2020																	
参考書	EUとは何か〔第3版〕 国家ではない未来の形 (現代選書) (日本語) 単行本 - 2019/9/30 中村 民雄 (著) Additional material will be provided in class																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	Final Assessment	50%																
	Class-based exercises	50%																
注意事項	The determination to study the European Union (EU) and a willingness to participate in classroom based activities/discussion in English. A desire to learn about politics.																	
備考	Preparatory reading prior to class so as to facilitate discussion will be expected. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式											
		グローバル化と政治経済(The Politics and Economics of Globalization)					経済学科 経済学科		対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択		1・2・3・4	教・医・理工 ・福	後期	木3	氏名 デイ スティーブン(経) E-mail sriday@oita-u.ac.jp 内線 6676														
授業の概要	The purpose of this module is to provide learners with an understanding of global issues and the impact of globalization from a political and economic perspective as they continue to dominate our lives – for good or for ill. In what ways has globalization impacted upon the nature of state sovereignty? Facilitated the role that global-level institutions play? Been challenged by the rise of populism? This leads us to ask an important question: Is globalization now in reserve?																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	Develop a knowledge and awareness of global issues																			
目標2	Provide the means to comment upon developments in a critical and lucid fashion																			
目標3	Evaluate and dissect key issues and different schools of thought surrounding the globalization debate.																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 Introductory remarks																				
2 The importance of critical thinking skills																				
3 Uncovering the dynamics of political and economic change																				
4 Remembering the Cold War																				
5 Key political and economic developments 1945-1989																				
6 Key political and economic developments post-1989																				
7 Revisiting the global financial crisis (2007-2009)																				
8 Hyperglobalists, sceptics and transformationalists - three schools of thought																				
9 Hyperglobalists, sceptics and transformationalists - which are the most relevant in the 2020s																				
10 Thinking about global governance																				
11 Thinking about borders in a globalized world																				
12 Thinking about identity in a globalized world																				
13 Globalization and wealth inequality																				
14 Globalization and the environment																				
15 Patriots and Globalists - a battle of ideas																				
ラーニング	A:知識の定着・確認	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.				工夫 その他	Students will be expected to keep a class log. 今日学んだこと 内容の概略、感想、疑問に思ったことなど What you learned today; overview of class; impressions; issues you wondered about													
時間外学習の内容と時間の目安	準備 (30 hours) - Please review the preparatory materials prior to the class. This will include reading, listening to MP3 files and watching programmes about global politics. Seek out Japanese language material in order to build up your background knowledge of global events.																			
	事後 (15 hours) - Update the class log. Check related documents. Watch and review the news/documentary programmes highlighted in class.																			
教科書	Manfred B. Steger (2020), Globalization: A Very Short Introduction, (5th edition) Oxford: Oxford University Press マンフレッド・B・スティーガー (2010) (櫻井 公人(翻訳), 櫻井 純理(翻訳), 高嶋 正晴(翻訳)) 新版 グローバリゼーション (1冊でわかる シリーズ)																			
参考書	池尾愛子 (2017) グローバリゼーションがわかる - 出版社 - 創成社 Additional material will be distributed during the course of the module																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10								
	Final Assessment	50%																		
	Class-based exercises	50%																		
注意事項	Learners will be expected to have a determination to study in English and a willingness to participate in classroom-based activities and discussion in English.																			
備考	Preparatory reading prior to class so as to facilitate discussion will be expected. We will make use of newspaper, academic journals, video and web-based material.																			
リンク																				
	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K132E304		現代国際関係論(Contemporary International Relations)				経済学科 経済学科	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2,3,4	経済	前期集中	他	氏名 高山 英男(非常勤講師) E-mail koyama@oita-u.ac.jp 内線										
授業の概要	現代の国際関係は様々な難題が生じており、戦後維持されてきた国際秩序(バックス・アメリカナ)が揺らいでいるかのようです。冷戦終結後にアメリカの一極的覇権体制が生まれたと言われました。しかし、今日、様々な勢力の挑戦を受けて、覇権体制が動揺しています。アメリカが主導してきた国際秩序に対して、ロシアや中国が挑戦しています。このような世界をどのような視点から見るかについてまず検討し、それから、今日の世界の主要な問題について検討します。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 国際関係の理論については、現在の国際関係を理解するための3つのアプローチについて理解して、それを使って世界を見直す																
目標2 国際関係を構造的に理解する。																
目標3 現代の国際政治の主要問題を理解する。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 はじめに：講義の目標とねらいについて																
2 国際関係論のアプローチ(1) リアリズムとネオ・リアリズム																
3 国際関係論のアプローチ(2) リベラリズムとネオ・リベラリズム																
4 国際関係論のアプローチ(3) マルクス主義と世界システム論																
5 国際関係の構造(1)																
6 国際関係の構造(2)																
7 政治体制と国際関係																
8 国際連合の役割																
9 地域統合の未来(1)																
10 地域統合の未来(2)																
11 国連のPKO、人道的介入																
12 核兵器の廃絶																
13 グローバリゼーション(1)																
14 グローバリゼーション(2)																
15 まとめ：今日の世界情勢																
ラーニング	A:知識の定着・確認	より深く学ぶためには、テキストを読むだけでなく、参考書も読むようにして下さい。				工夫	その他の	新聞の切り抜きなどを使って、具体的な事件の理解を深める。								
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキストを読んで、わからないところを書き出し、自分で調べてみる。2時間。														
	事後学修	レジュメを読み返し、参考文献を調べて、ノートにまとめておく。2時間														
教科書	村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国際政治学をつかむ』有斐閣、2015年															
参考書	読みやすい新書などを講義の中で指示します。参考文献はとても大事です。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	レポート	100%														
注意事項	遅刻をしないように気をつけてください。															
備考	日本や日本人を巻き込んだ大きな事件が起こっています。国際政治が身近なものになっています。ニュースやその背景に注目してください。															
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K142E408	現代国際関係史(Contemporary International Political History)					経済学科 経済学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3,4	経済学部	後期集中	他	氏名 高山 英男(非常勤講師) E-mail koyama@oita-u.ac.jp 内線						
授業の概要	現在の国際政治の構造をアメリカの一極覇権体制と捉えて、冷戦後にその体制がどのように形成され、維持されてきたかと言うことを焦点として、10年ごとに時代を輪切りにして、アメリカ、ロシア、中国、EUの4つの主体の政治外交戦略について概説します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	アメリカの冷戦後の戦略について理解する。											
目標2	ロシアの冷戦後の政治外交戦略について理解する											
目標3	中国の冷戦後の政治外交戦略について理解する。											
目標4	EUの冷戦後の統合戦略について理解する。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	はじめに：講義の目標とねらいについて											
2	アメリカ保守革命の世界戦略(1)											
3	アメリカ保守革命の世界戦略(2)											
4	アメリカ保守革命の世界戦略(3)											
5	アメリカ保守革命の世界戦略(4)											
6	冷戦終結後の新世界秩序の模索(1)											
7	冷戦終結後の新世界秩序の模索(2)											
8	冷戦終結後の新世界秩序の模索(3)											
9	冷戦終結後の新世界秩序の模索(4)											
10	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて(1)											
11	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて(2)											
12	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて(3)											
13	21世紀の世界戦略：新たな覇権体制を求めて(4)											
14	現段階の世界政治の構造											
15	まとめ											
ラーニング ポイント ニ ン イ グ エ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	より深く学ぶためには、テキストを読むだけでなく、参考書も読むようにして下さい。			工夫 その 他の	新聞の切り抜きなどを使って、具体的な事件の説明をする。						
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	テキストを読んでくるとともに、わからないところを調べる。2時間。										
	事後 学修	レジュメを読み直して、ノートと比較し、参考文献を読む。2時間。										
教科書	小川浩之・板橋拓己・青野利彦著『国際政治史』有斐閣、2018年。											
参考書	そのつど講義中に指示します。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	レポート	100%										
注意事項	ムードル上にレポート課題や期日などを示しますので、気をつけてください。											
備考	アメリカは戦後世界をリードしてきた覇権国家です。大統領の戦略や具体的な政策が日本だけでなく、世界中の国々に影響を与えます。関心を持って勉強してください。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K143E408	労使関係論(Labor-Management Relations Theory)					経済学科 経済学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	3,4	経済	後期	火3	氏名 石井 まこと E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	労働条件は、たとえば春闘のように労働組合と企業の交渉 = 集団的労使関係で決まっていますが、近年、こうした集団的な決定が衰退化し、労働市場における個別での決定に傾いています。この授業ではこうした個別化が労働者と社会に与える影響を考えていきます。そのために、まず、労使関係によって労働条件が変化することを理解し、労使関係の発展史を検討し、あわせて国際比較により日本の労使関係の特徴を紹介していきます。その上で、ワークショップ形式により、労使関係が我々の人生のなかで、いかなる可能性を持ちうるのか考えていきます。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	日本の労使関係の諸特徴を説明できる。											
目標2	労使関係の発展史を説明できる。											
目標3	労使関係を自分事の問題とし、解決に向けた行動の重要性を理解できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	労使関係はどういう学問か											
2	日本の労使関係の特徴と形成(1) - 近代											
3	日本の労使関係の特徴と形成(2) - 現代											
4	賃金問題と労使関係											
5	集団的労使関係の変化と労働市場											
6	人事管理の変化と労使関係											
7	企業別組合と労使関係											
8	組織化の課題											
9	日本の経営者・経営者団体と労働組合											
10	政府と労使関係											
11	国際化が変える労使関係とは											
12	デモ・ストライキで変える労働・生活条件											
13	就職活動と労使関係											
14	地方で賃上げをする意義											
15	総括											
ラーニング ポイント チェック シート グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	この講義ではほぼ毎回授業レポートを行い、可能な限り質問に答えています。				工夫 その 他の	授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。					
時間外学習 の内容と時 間の目安	準備 学修	レジュメ・参考文献の予習(22.5時間:1回1.5時間)。										
	事後 学修	レポートの作成(22.5時間:1回1.5時間)。										
教科書	毎回レジュメを配布します。											
参考書	仁田道夫・中村圭介・野川忍(2021)『労働組合の基礎』日本評論社。 浅見和彦(2021)『労使関係論とはなにか』旬報社。 富田義典・花田昌宣・チッソ労働運動史研究会(2021)『水俣に生きた労働者』明石書店。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	課題レポート	30%										
	期末テスト	70%										
注意事項	授業時間中に適宜、質問時間をとります。積極的に聞いてください。											
備考												
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	大原記念労働科学研究所での研究員（1995.4～1998.3）

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K132E305		西洋経済史(History of Occidental Economy)					経済学科 経済学科		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択	2	2,3,4	経済	前期	木2	氏名 市原 宏一 E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719													
授業の概要	先進的な工業化社会を生んだヨーロッパ地域を対象として、中世前期までのヨーロッパ経済社会の変容と展開をたどります。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 中世盛期までのヨーロッパ経済史における基本構造を理解する。																			
目標2																			
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 経済史の方法																			
2 本源的な社会																			
3 古典古代地中海世界1:植民活動																			
4 古典古代地中海世界2:アテネ「民主制」																			
5 古典古代地中海世界3:ローマ「共和制」																			
6 民族移動期のゲルマン社会																			
7 資料からみる中世前期ヨーロッパの農村																			
8 中世前期ヨーロッパの農村:古典荘園																			
9 資料からみる中世前期ヨーロッパの流通・交易																			
10 中世前期ヨーロッパの流通・交易:領主経済																			
11 資料からみる中世盛期ヨーロッパの農村																			
12 中世盛期ヨーロッパの農村:純粋荘園																			
13 資料からみる中世盛期ヨーロッパの流通・商業																			
14 中世盛期ヨーロッパの流通・商業:農村内階層分化																			
15 まとめ																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	・小テストないし小レポートを講義中に行い、自己採点して理解の定着を図ります。					工夫 その他												
	B:意見の表現・交換	・小テストの回答を、指名発問を受けて行い、教室全体の協働学習で考察を深めます。																	
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	配布資料の次回講義部分をあらかじめ読んでおき、質問・意見を用意しておくこと(15h)																	
	事後学修	授業中に提示した参考資料の読解(15h)、時間中におこなった小テストの誤答箇所について、正解を確認して、ノートに整理しておくこと(15h)																	
教科書	特にないが、授業中にプリントなどを配付します。																		
参考書																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	授業内小テスト	40%																	
	学期末試験	60%																	
注意事項																			
備考	講義が一方通行にならないように、小テスト(A5判)を行い、授業内でその内容の発表をしてもらうとともに、答え合わせ・解説を行います。																		
リンク	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
K142E413		日本経済史 (Economic History of Japan I)				経済学科 経済学科	対面													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	2,3,4	経	前期集中	他	氏名 坂江 渉(非常勤講師) E-mail fzt03024@nifty.com 内線														
授業の概要	一般に歴史において経済が自立して動き出すのは近現代以降である。それ以前の社会では、経済の歴史はつねに政治、外交、文化・宗教と密接な関連をもって展開した。とくに日本では在来の神祭り信仰と仏教が、現代と較べものにならないほど、人びとの生活に大きな影響を与えていた。それは時に民衆生活の物質的、精神的な拠り所となり、あるいは支配の道具として利用された。本講では、「人びとの生業・暮らしと信仰」「中央と地方の交通」「対外関係と経済・物流」「国家権力と神仏政策」という視点に留意して、古代から近世の歴史を概観する。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	前近代社会の経済の歴史は、つねに政治、外交、文化・宗教と密接な関連性をもっていたことを理解できること。																			
目標2	人びとの経済生活と宗教文化の関係を基軸にした前近代の日本の歴史の展開を、自分自身の言葉で説明できるようになること。																			
目標3	外国人との国際交流の場において、文化の相互理解をめぐり円滑なコミュニケーションができるようになること。																			
目標4	歴史を学んで単に知識を増やすだけでなく、つねに現在社会のあり方を見つめ直す能力を得られるようになること。																			
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	序論ガイダンス「日本経済史 何を学ぶのか」																			
2	前近代の生業と暮らし (多産多死型社会の現実)																			
3	前近代の生業と暮らし (多産多死型社会の現実)																			
4	婚姻・出産と神祭りの共同体																			
5	古代国家と記紀神話																			
6	大陸からの文物受容と初期仏教																			
7	律令制下の疫病をめぐる社会習俗																			
8	仏教の普及と社会的弱者の救済																			
9	神仏政策の転換 -上からの神仏習合-																			
10	神仏政策の転換 -御霊会と天神信仰-																			
11	中世荘園制と寺社勢力																			
12	中世寺社勢力と朝廷・武家・民衆との関係																			
13	中世の終焉と経済・流通																			
14	江戸幕府の仏教統制と「家仏教」の成立 -																			
15	まとめ																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	講義の節目となる授業後に、小レポート等を課し、感想・疑問点などを書いてもらう。その内容を次回の講義でフィードバックして双方向性を高める。また誤字、脱字等を指摘し、受講生の文章表現能力の向上をはかる。								工夫	その他の									
準備学修	あらかじめ配布する資料を読んで予習し、質問や意見を用意しておくこと(約45分以上)。																			
事後学修	講義で習った内容をネットなどで確認して内容を深めるとともに、つねに現代日本の社会のあり方に眼を向けるよう努力する(約45分以上)																			
教科書	なし																			
参考書	兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編(坂江渉監修)『播磨国風土記』の古代史(神戸新聞総合出版センター、2021年。定価1800円)など。このほか適宜授業中に紹介する。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	講義の節目となる授業後に課す小レポートの評点	50%																		
	集中講義の最終日に課すレポートの評点	50%																		
注意事項	つねに「歴史とは過去と現代との会話」という言葉を念頭において受講してください。																			
備考																				
リンク	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式																																																																																																																																	
K142E414		日本経済史 (Economic History of Japan II)					経済学科 経済学科	オンライン(同時双方向型、オンデマンド型)																																																																																																																																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																																																																																																																			
選択	2	2,3,4	経	前期集中	他	氏名 堀川 祐里 E-mail 内線																																																																																																																																			
<p>日本の産業革命期から現代に至る経済の歴史を、特に労働に焦点を当て、ジェンダーの視点から考察する。 本授業の目的は、受講生の歴史を学ぶことについての意義の理解を、年号や重要語句を覚えるといった受験勉強のようなものから、現代社会の問題を解決する方法であるという理解へと発展させることである。高校生までに得た日本史の知識をジェンダーの視点から相対化出来ることを目指してほしい。 本授業の履修にあたっては、高校生までの日本史の知識があることが望ましいと言える。</p>																																																																																																																																									
<p>具体的な到達目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 日本経済史の基礎的知識を身につける。</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>目標2 講義で取り扱うそれぞれの時期における労働環境の特徴について説明できるようになる。</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>目標3 日本経済についてジェンダー視点から自分の考えを述べるができるようになる。</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>目標4</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table>																	目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 日本経済史の基礎的知識を身につける。											目標2 講義で取り扱うそれぞれの時期における労働環境の特徴について説明できるようになる。											目標3 日本経済についてジェンダー視点から自分の考えを述べるができるようになる。											目標4											目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																															
目標1 日本経済史の基礎的知識を身につける。																																																																																																																																									
目標2 講義で取り扱うそれぞれの時期における労働環境の特徴について説明できるようになる。																																																																																																																																									
目標3 日本経済についてジェンダー視点から自分の考えを述べるができるようになる。																																																																																																																																									
目標4																																																																																																																																									
目標5																																																																																																																																									
目標6																																																																																																																																									
目標7																																																																																																																																									
目標8																																																																																																																																									
目標9																																																																																																																																									
目標10																																																																																																																																									
<p>授業の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：授業計画、成績評価、注意事項等に関する説明。 ジェンダーの視点から見た経済史 官営富岡製糸場と工女 産業革命と労働運動の高揚 工場法の成立と繊維産業の変遷 女性の高学歴化と「職業婦人」 戦時中の日本経済と社会政策の在り方 戦時中の日本経済と社会政策の在り方 戦前期の日本経済のまとめ 労働組合の歴史 戦後の労働状況と労働運動 高度経済成長期と「専業主婦」 高度経済成長期と「専業主婦」 国連女子差別撤廃条約の批准と男女雇用機会均等法の制定 まとめ：現代の労働環境を歴史的視点から考える 																																																																																																																																									
ラック ニテ イ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					本授業は遠隔授業である。双方向性を保つよう、受講生にはチャット等オンラインツールを用いた課題や質問に回答してもらう。					工 夫 そ の 他 の	授業の一部に、動画配信等を用いたオンデマンド型授業を実施することもある。																																																																																																																													
時間外学修 の内容と時 間の目安	<p>準備 本授業は、受講生が将来社会人として自立する力を身につけるために、自己学習の習慣をつけることを推奨する。新聞やニュース等で報道される労働やジェンダーに関する話題にアンテナを張り、情報収集を心がけること。各授業につき2時間程度。 事後 本授業を履修するにあたっては、授業後の復習を重要視する。授業内を行う小テストや課題をクリアできるよう、毎回の授業で扱った範囲についてはその都度学修(復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しておくこと。各授業につき2時間程度。</p>																																																																																																																																								
教科書	<p>教科書は用いず、毎回の授業で配布するレジュメ、資料、参考文献等に基づいて講義を進める。受講生には「メモ」をとることを習慣づけ、自分だけのノートを作成していくことを心がけてほしい。大学のポータル機能から資料を配布するため、授業の前にはシステムを確認し、適宜資料の印刷等をおこなっておくこと。</p>																																																																																																																																								
参考書	<p>自己学習のための参考書としては、以下の文献を挙げる。ここに挙げた文献のほか、参考書は授業内に適宜紹介する。 金子貞吉(2005)『戦後日本経済の総点検』学文社。 久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編(2015)『ジェンダーから見た日本史』大月書店。</p>																																																																																																																																								
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10																																																																																																																													
	授業内におこなう小テスト	45%																																																																																																																																							
	オンラインツールを用いた課題や質問への回答	55%																																																																																																																																							
注意事項	<p>授業に關しての詳細や注意事項は初回の授業で説明するため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には、必ず第1回目の授業に出席すること。また、個人による授業の録音・録画を禁止する。</p>																																																																																																																																								
備考	<p>通信状況のエラー等で小テストや授業内課題に答えられない、というトラブルについては対応しない(救済措置はない)ため、毎回スマホ、タブレット、パソコン等の端末は電池が切れないように充電し、オンライン環境を整えて受講すること。同様に、欠席に対する救済措置もない。</p>																																																																																																																																								
リンク																																																																																																																																									
	URL																																																																																																																																								

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式														
K141E403	経済史(Economic History)					経済学科 経済学科															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択	2	1,2,3,4	経済学部	後期	木2	氏名 市原 宏一 E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719															
授業の概要	西洋の工業化社会の仕組みはどのような歴史的前提から生まれ、地球的な規模に拡大していったのでしょうか。発端となったイギリスの産業革命を中心に、工業化の過程とその歴史的特徴を探ります。																				
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	イギリスにおける工業化過程の学習を通じて、近代的な経済システム成立の歴史的特徴とその社会経済的帰結を理解する																				
目標2																					
目標3																					
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1	内的要因と外的契機																				
2	農村工業の展開																				
3	農業革命																				
4	市民革命																				
5	消費習慣の変化																				
6	大航海時代																				
7	大西洋三角貿易																				
8	機械制大工業の成立																				
9	社会的帰結																				
10	教育制度																				
11	都市計画																				
12	公衆衛生																				
13	組織的労働運動の形成																				
14	世界市場の確立																				
15	補足とまとめ																				
ラーニング	A:知識の定着・確認	・小テストないし小レポートを講義中に行い、自己採点して理解の定着を図ります。											工夫 その他								
	B:意見の表現・交換	・小テストの回答を、指名発問を受けて行い、教室全体の協働学習で考察を深めます。																			
	C:応用志向																				
	D:知識の活用・創造																				
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	配布資料の次回講義部分をあらかじめ読んでおき、質問・意見を用意しておくこと(15h)																			
	事後 学修	授業中に提示した参考資料の読解(15h)、時間中におこなった小テストの誤答箇所について、正解を確認して、ノートに整理しておくこと(15h)																			
教科書	特にないが、授業中にプリントなどを配付します。																				
参考書	川北稔『世界システム論講義』ちくま、2016 川北稔『イギリス近代史講義』講談社、2010 秋田茂『イギリス帝国の歴史』中公、2012																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	授業内小テスト	40%																			
	学期末試験	60%																			
注意事項																					
備考																					
リンク	URL																				

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K142E415	経済政策論 (Theory of Economic Policy I)					経済学科 経済学科	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	2,3,4	経	前期	月2	氏名 高見 博之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674									
授業の概要	現実の様々な経済問題を評価するためには、個々の事例について何らかの理論的枠組みを基礎として考察することがより有効です。その枠組みとしての、経済理論・経済政策についての基礎的な学問体系の修得がこの講義の目的です。ミクロ経済学の考え方をを用いて、市場経済の限界と政府の果たすべき役割について理解し、経済政策の基本的な考え方を展開します。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	市場が成功する状況を説明できる。														
目標2	市場が失敗する事例を説明できる。														
目標3	外部性が存在する場合の問題点を説明できる。														
目標4	公共財が存在する場合の問題点を説明できる。														
目標5	不完全競争の場合の問題点を説明できる。														
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	政府の役割とは														
2	経済政策の課題														
3	市場均衡(1): 消費者行動														
4	市場均衡(2): 企業行動														
5	市場均衡(3): 市場均衡														
6	市場均衡と厚生経済学の基本定理														
7	政府の市場介入のコスト(余剰分析)														
8	市場の失敗														
9	外部性(1): 私的解決策														
10	外部性(2): 公的解決策														
11	公共財(1): 公共財の最適供給														
12	公共財(2): リンダール・メカニズム														
13	独占と市場の失敗														
14	自然独占と価格設定														
15	まとめ														
ラ ア ク B: ニ テ ン イ グ エ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回の「講義内容についての質問」「その日の講義のキーワード」の提出と、随時、小レポートを作成してもらい、講義内容について主体的に理解を深めてもらう機会を設定します。	工 夫 そ の 他 の	各種外部試験(経済学検定試験や公務員試験など)を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。											
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修 事後 学修	現実の政府の活動に関心をもって日本経済新聞を読むこと(8h)。 講義時の小レポートと講義内容の振り返り(14h)													
教科書	教科書は設定しません。プリントを配布します。														
参考書	講義中に適宜提示しますが、以下の2冊を挙げておきます。 常木淳(2002)『公共経済学 第2版』, 新世社。 八田達夫(2013)『ミクロ経済学 Expressway』 東洋経済新報社。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末試験	70%													
	講義時等の小レポート	30%													
注意事項	板書により講義を進めます。														
備考	本講義の分析手法は、専門基礎科目の初級ミクロ経済学程度の水準です。														
リンク	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K143E412	公共経済学(Public Economics)					経済学科 経済学科						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	3,4	経済学部	前期	月3	氏名 高見博之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674						
授業の概要	本講義では、市場メカニズムが有効に働かない場合の公共部門の活動を理解し、公共部門に関わる経済問題を経済理論(特にミクロ経済学)を応用することによって論理的に説明できる思考方法を身につけることを目的とします。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	市場が成功する場合の経済学的な前提条件を説明できる											
目標2	公共財が存在する場合の市場の失敗の対策について説明できる											
目標3	外部性が存在する場合の市場の失敗の対策について説明できる											
目標4	費用逓減産業が存在する場合の市場の失敗の対策について説明できる											
目標5	「インセンティブ」の考え方を説明できる											
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	公共経済学とは											
2	微分の基礎											
3	微分の基礎と経済学											
4	厚生経済学の基本定理(1) 完全競争市場均衡											
5	厚生経済学の基本定理(2) パレート最適性											
6	公共財(1) 公共財の最適供給条件と市場の失敗											
7	公共財(2) リンダール・メカニズム											
8	公共財(3) クラーク・メカニズム											
9	外部性(1) 外部性と市場の失敗											
10	外部性(2) 外部性と私的解決策											
11	外部性(3) 外部性と公的解決策											
12	不完全競争(1) 費用逓減産業と市場の失敗											
13	不完全競争(2) 一律従量料金制											
14	不完全競争(3) 二部料金制											
15	まとめ											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回の「講義内容についての質問」「その日の講義のキーワード」の提出と、随時、小レポートを作成してもらい、講義内容について主体的に理解を深めてもらう機会を設定します。	工夫 その他	各種外部試験(経済学検定試験や公務員試験など)を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。								
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	現実の政府の活動に関心をもって日本経済新聞を読むこと(8h)										
	事後 学修	講義時の小レポートと講義内容の振り返り(14h)										
教科書	教科書は設定しません。プリントを配布します。											
参考書	岸本哲也(1999)『公共経済学』(有斐閣)、伊藤隆敏(2017)『公共政策入門』(有斐閣)、小川光・西森晃(2015)『公共経済学』(中央経済社)、神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』(日本評論社)など。適宜、講義時に提示します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験	70%										
	平常点(小レポートなど)	30%										
注意事項												
備考	講義では明示的に数学的な手法(微分)を使用します。その内容については複数回の講義で説明するため、必ずしも事前に学習する必要はありません。「初級ミクロ経済学」「経済政策論」を履修済みの学生を想定した講義です。											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K141E404	社会政策(Social Policy)					経済学科 経済学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1,2,3,4	経済	前期	金1	氏名 石井 まこと E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	社会政策は、労働問題、労使関係、社会保障、社会福祉、女性学、ジェンダー研究、生活問題など幅広い領域を対象にしています。主として仕事と暮らしに関わる問題について、社会問題をいかにとらえるべきか、いかなるアプローチをとるべきかを議論している学問体系です。こうした社会問題のとらえ方を本講義では学んでもらいます。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	社会政策が取り扱う問題に対して、自分事として考えられる。											
目標2	新聞・各種メディアの報道を鵜呑みにせず、客観的な判断ができる。											
目標3	社会問題を解決する行動の重要性を理解できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	社会政策とはどういう学問か											
2	社会政策の方法(1) - 経済学的手法											
3	社会政策の方法(2) - 政治学的手法											
4	社会政策の方法(3) - 社会学的手法											
5	社会政策の対象 - 仕事と生活の関係											
6	社会政策の研究史(1) - 欧米編											
7	社会政策の研究史(2) - 日本編											
8	社会政策の研究史(3) - 東アジア編											
9	賃金・労働時間に関わる争点											
10	雇用問題に関わる争点											
11	労使関係・労働組合に関わる争点											
12	社会保障に関わる争点(1) - 年金・医療・介護											
13	社会保障に関わる争点(2) - 福祉・公的扶助											
14	ジェンダーに関わる争点											
15	総括											
ラーニング ポイント チェック ニ ン グ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	この講義ではほぼ毎回授業レポートを行い、可能な限り質問に答えています				工 夫 そ の 他 の	授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。					
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	レジュメ・参考文献の予習(22.5時間:1回1.5時間)。										
	事後 学修	レポート課題の作成(22.5時間:1回1.5時間)。										
教科書	特に指定しません。レジュメを講義で配布します。											
参考書	石井まこと・宮本みち子・阿部誠編(2017)『地方で生きる若者たち』旬報社。 石井まこと・兵頭淳史・鬼丸朋子編(2010)『現代労働問題分析 - 労働社会未来を拓くために - 』法律文化社。 平澤克彦・中村艶子編(2021)『ワークライフ・インテグレーション』ミネルヴァ書房。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	授業レポート	30%										
	期末テスト	70%										
注意事項	予習が可能なように事前問題を毎回用意します。また、質問時間を適宜とりますので、遠慮なく質問してください。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K143E413		セミナー「働くということと労働組合」(Work and Trade Union Seminar)					主専門科目 その他	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3,4	経済学部	後学期	水4	氏名 石井まこと・小山敬晴 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698											
授業の概要	この授業は、寄附講義「働くということと労働組合」の応用科目として位置づけられ、労働現場で起きている実際の諸問題を事例をもとに、少人数のグループ・ディスカッション形式で解決策を考えながら、自身のライフプランを考える授業です。とくに、労働法の適用を免れるために、契約では個人事業主として扱われて働く人たち(料理配達人、ホテル支配人、俳優、音楽実演家、英語講師、ヨガ指導者、美容・理容業、コンビニ店長など)の労働問題を検討対象にします。労働問題を真剣に考えてみたい学生のみなさんの受講を期待しています。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	労働問題の具体的な内容を知ることができる。																
目標2	労働条件の維持・向上の仕組みを理解できる																
目標3	議論を通じて、適切な解決策を導き出すことができる。																
目標4	ワークルールを正しく理解している。																
目標5	ライフデザインを創造することができる。																
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	イントロダクション：ライフデザインを考えよう - 生活編																
2	イントロダクション：ライフデザインを考えよう - 労働編																
3	名ばかり個人事業主とは																
4	労働組合の役割とは																
5	事例検討 就活(1)：事例紹介と討論																
6	就活(2)：解決に向けた取り組み方法																
7	事例検討 名ばかり個人事業主(1)：事例紹介と討論																
8	名ばかり個人事業主(2)：解決に向けた取り組み方法																
9	事例検討 名ばかり個人事業主(1)：事例紹介と討論																
10	名ばかり個人事業主(2)：解決に向けた取り組み方法																
11	実務家からの講義																
12	ワークルールが広まる労使関係にするために グループ報告の作成(1)																
13	ワークルールが広まる労使関係にするために グループ報告の作成(2)																
14	ワークルールが広まる労使関係にするために グループ報告と評価																
15	総括討論																
ラック ニ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	グループ・ディスカッションを積極的に活用し、議論が活発にできるよう にしていけます。 また、Slack(ビジネスアプリ)を活用し、教員・学生間のコミュニケーションを充実させていきます。				工夫 その 他の	労働問題を抱えている当事者の方をゲストとして登場してもらい、解決策と一緒に考えます。自分が当事者になったと考えてもらえるように、授業を進めていきます。										
時間外 の内容と 時間の 目安	準備 学修	これまで受講してきた労働問題関係の授業の復習をすること。「働くということと労働組合」をはじめ、「社会政策」、「労使関係論」、「労働関係法」、「労働関係法」などレジュメおよびノートを使って、学習内容を振り返ってください。30時間															
	事後 学修	授業で扱ったワークルールや事例について、他にどのような事例があるか調べてください。そのうえで、その事例の解決策を自分で考えて、次回報告できるようにしてください。15時間															
教科書	『ディスガイド・エンプロイメント-名ばかり個人事業主』学習の友社																
参考書	授業内で適宜紹介します。とりえず、高橋祐吉・鷲谷徹・赤堀正成・兵頭淳史編(2016)『図説 労働の論点』旬報社を挙げておきます。ワークルール検定に関連した書籍もお勧めです。																
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	授業内での課題への取り組み	50%															
	プレゼンテーション	50%															
注意事項	セミナー形式ですので、出席・参加意欲を重視しますので、欠席しがちな人は遠慮してください。受講生数は10名程度です。9月の後期ガイダンスにて受講者調整を行いますので、必ずガイダンスに出席してください。																
備考	現実進行形の労働問題を含めて、皆さんが就職後も役立つ知識になるような授業にしていきたいと考えています。																
リンク																	
	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
K142E418	日本の社会保障(Social Security System in Japan)					その他 経済学科														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	2,3,4	経	前期集中	他	氏名 丹波 史紀 E-mail tamba@fc.ritsumei.ac.jp 内線														
授業の概要	人口減少・過疎高齢化、家族や地域の有り様が大きく変化する現代日本において、生活保障として機能する社会保障は一体どんな役割を社会の中で果たしているのか。病気やケガ、失業や労働中の災害、高齢化など、現代社会がかかえる様々なリスクに対し、日本の社会保障制度の歴史と仕組みを概観し、あるべき社会保障の姿を考えます。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	日本の社会保障の発展の歴史を理解します。																			
目標2	日本の社会保障制度の体系とそれぞれの制度の特質について理解します。																			
目標3	今日の日本の社会保障がかかえる課題を理解し、その社会経済的背景を考えます。																			
目標4	社会保障制度改革をめぐる論点を理解し、これからの社会保障制度のあるべき姿を考えます。																			
目標5	日本社会において生きていく私たちの重要な役割として、社会保障制度を暮らし・健康・地域などの視点から考えます。																			
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	社会保障の原理と体系																			
2	日本の社会保障制度の歴史																			
3	日本の社会保障制度の歴史																			
4	日本の社会保障制度の体系と特質																			
5	社会経済構造の変化と社会保障制度のあるべき姿																			
6	現代家族の変化と社会保障																			
7	日本の年金保険制度の歴史と制度																			
8	日本の年金保険制度の実態と課題																			
9	日本の医療保険制度の歴史と制度																			
10	日本の医療保険制度の実態と課題																			
11	労働保険制度と労働者災害補償保険																			
12	超高齢社会における介護保険制度																			
13	今日の貧困問題と生活保護制度																			
14	世界の中の日本の社会保障制度の位置																			
15	新しい社会的リスクと社会保障・社会福祉の課題																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	積極的な質疑を期待したい。なお、授業の中では映像資料なども活用する。														工夫	その他			
	B:意見の表現・交換																			
	C:応用志向																			
	D:知識の活用・創造																			
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	社会保障制度などに関する文献や新聞記事などを読み、社会保障の課題を理解しておくといいでしよう。																		
	事後学修																			
教科書	レジュメなどを授業の際に配布します。																			
参考書	授業の中で指示します。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	授業内の小テスト	30%																		
	出席等の平常点	30%																		
	期末レポート	40%																		
注意事項																				
備考																				
リンク	URL																			

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式														
K142E418	日本の社会保障(Social Security System in Japan)					経済学科 経済学科															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択	2	2,3,4	経	前期集中	他	氏名 丹波 史紀 E-mail tamba@fc.ritsumeai.ac.jp 内線															
授業の概要	人口減少・過疎高齢化、家族や地域の有り様が大きく変化する現代日本において、生活保障として機能する社会保障は一体どんな役割を社会の中で果たしているのか。病気やケガ、失業や労働中の災害、高齢化など、現代社会がかかえる様々なリスクに対し、日本の社会保障制度の歴史と仕組みを概観し、あるべき社会保障の姿を考えます。																				
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	日本の社会保障の発展の歴史を理解します。																				
目標2	日本の社会保障制度の体系とそれぞれの制度の特質について理解します。																				
目標3	今日の日本の社会保障がかかえる課題を理解し、その社会経済的背景を考えます。																				
目標4	社会保障制度改革をめぐる論点を理解し、これからの社会保障制度のあるべき姿を考えます。																				
目標5	日本社会において生きていく私たちの重要な役割として、社会保障制度を暮らし・健康・地域などの視点から考えます。																				
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1	社会保障の原理と体系																				
2	日本の社会保障制度の歴史																				
3	日本の社会保障制度の歴史																				
4	日本の社会保障制度の体系と特質																				
5	社会経済構造の変化と社会保障制度のあるべき姿																				
6	現代家族の変化と社会保障																				
7	日本の年金保険制度の歴史と制度																				
8	日本の年金保険制度の実態と課題																				
9	日本の医療保険制度の歴史と制度																				
10	日本の医療保険制度の実態と課題																				
11	労働保険制度と労働者災害補償保険																				
12	超高齢社会における介護保険制度																				
13	今日の貧困問題と生活保護制度																				
14	世界の中の日本の社会保障制度の位置																				
15	新しい社会的リスクと社会保障・社会福祉の課題																				
ラーニング	A:知識の定着・確認	積極的な質疑を期待したい。なお、授業の中では映像資料なども活用する。										工夫	その	他の							
準備	B:意見の表現・交換																				
事後	C:応用志向																				
学修	D:知識の活用・創造																				
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	社会保障制度などに関する文献や新聞記事などを読み、社会保障の課題を理解しておくといいでしよう。																			
	事後学修																				
教科書	レジュメなどを授業の際に配布します。																				
参考書	授業の中で指示します。																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	授業内の小テスト	30%																			
	出席等の平常点	30%																			
	期末レポート	40%																			
注意事項																					
備考																					
リンク																					
	URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K142E419		財政学 (Public Finance)					経済学科 経済学科	オンライン(同時双方向型、オンデマンド型)										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	水2	氏名 林 勇貴 E-mail yhayashi@oita-u.ac.jp 内線 7705												
授業の概要	公園などの公共財の供給、社会保障、景気対策など、政府や自治体は多くの活動を通して、私たちの生活を支え、望ましい社会を実現しています。しかし、近年、財政状況は厳しくなるとともに、高齢化社会にともなう年金問題や地域間格差など解決すべき問題は増え続け、財政運営はますます困難の度を強めています。本講義では、様々な財政問題の現状を把握し、問題発生の原因を探り、問題解決の糸口を考えていきます。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 政府の役割を理解する。																		
目標2 財政問題の現状や発生のメカニズムを理解する。																		
目標3 関連した新聞記事などの理解力を強化する。																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 イントロダクション - 財政学とは -																		
2 日本の財政状況を考える																		
3 財政赤字の問題点(1)																		
4 財政赤字の問題点(2)																		
5 経済活動における財政の役割																		
6 財政の役割 - 資源配分機能とその効果 -																		
7 政府支出の理論 - 効率性 -																		
8 政府支出の理論 - 公共財の最適供給 - (1)																		
9 政府支出の理論 - 公共財の最適供給 - (2)																		
10 政府支出の理論 - 公共財の最適供給 - (3)																		
11 政府の失敗を考える																		
12 財政と経済安定 - 経済安定化機能とその効果 -																		
13 経済安定化のメカニズム(1)																		
14 経済安定化のメカニズム(2)																		
15 まとめ																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	Moodleにアップロードする動画と資料を中心に講義を進めるとともに、随時、学生からの発言やアンケート、レポートを求める。また、授業終了後に質問を受け付ける。					工夫	その他の										
時間外学習の内容と時間の目安	準備	現在発生している財政の諸問題に対して関心を持ってもらいたい。そのためにも、財政関連の新聞記事に目を通す(15h)。																
	学修																	
	事後	・レポートに取り組む(15h)。																
	学修	・理解できなかった点を明確にするため、復習する(15h)。																
教科書	特に指定なし																	
参考書	林宜嗣・林亮輔・林勇貴(2019)『基礎コース財政学 第4版』、新世社																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	学期末試験	80%																
	授業内レポート	20%																
注意事項	特になし																	
備考	特になし																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K142E420		財政学 (Public Finance II)					経済学科 経済学科	オンライン(同時双方向型、オンデマンド型)								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	水2	氏名 林 勇貴 E-mail yhayashi@oita-u.ac.jp 内線 7705										
<p>授業の概要</p> <p>財政学では、望ましい社会を実現するために必要な「財政の役割」について主に解説しました。財政学の前半では「財政の役割」として、社会保障の目的と課題について考え、問題解決の糸口を探ります。「財政の役割」を国や自治体が果たすには、財源が必要ですが、近年、少子高齢化によって財源調達が困難になっています。財政学の後半は財源調達方法としての税の役割について考えます。</p>																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 政府の役割を理解する。																
目標2 財政問題の現状や発生のメカニズムを理解する。																
目標3 関連した新聞記事などの理解力を強化する。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 イントロダクション - 財政学とは -																
2 所得分配の実態と財政による再配分(1)																
3 所得分配の実態と財政による再配分(2)																
4 社会保障の目的																
5 社会保障の課題 - 年金 -																
6 社会保障の課題 - 医療等 -																
7 財政の役割のまとめ - 国と地方の役割分担 -																
8 地域の検証 - 回帰分析を学ぼう -																
9 税の役割と租税原則(1)																
10 税の役割と租税原則(2)																
11 課税と経済効率																
12 日本の主要な税 - 所得税 -																
13 日本の主要な税 - 消費税 -																
14 日本の主要な税 - 法人税 -																
15 まとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	Moodleにアップロードする動画と資料を中心に講義を進めるとともに、随時、学生からの発言やアンケート、レポートを求める。また、授業終了後に質問を受け付ける。				工夫	その他の									
時間外学習の内容と時間の目安	準備	現在発生している財政の諸問題に対して関心を持ってもらいたい。そのためにも、財政関連の新聞記事に目を通す(15h)。														
	学修	レポートに取り組む(15h)。														
	事後	理解できなかった点を明確にするために、復習する(15h)。														
教科書	特に指定なし															
参考書	林宜嗣・林亮輔・林勇貴(2019)『基礎コース財政学 第4版』、新世社															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	学期末試験	70%														
	授業内レポート	30%														
注意事項	特になし															
備考	特になし															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K142E421		金融論 (Finance I)					主専門科目 その他											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	2,3,4	経	前期	火2	氏名 小笠原 悟 E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713												
授業の概要	お金ってなんだろう。コンビニでモノを買ったりするときに使うもの、将来のために貯めておくもの、同じようなモノでもどちらを買えばいいか比較する時に尺度として使うもの、などなど。お金はみなさんが経済活動をする上で必ずといっていいほど一緒にいてきます。こうした身近な「お金」について、その流れに関わる経済現象を取り扱うのが金融論です。本講義では、金融の基礎を学ぶとともに、それが私たちの生活の中でどのような役割を果たしているか理解できるようにします。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	貨幣・金融の概念、金融制度、金融行政・金融政策の3つの分野について基礎知識を習得すること																	
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	ガイダンス																	
2	貨幣(テキスト第2章)																	
3	金利(第3章)																	
4	金融政策のためのマクロ経済学(第4章)																	
5	金融政策の課題と日本銀行(第5章)																	
6	金融政策の基本手段と新しい展開(第6章)																	
7	金融システムと金融仲介機関の役割(第7章)																	
8	銀行以外の金融機関(第8章)																	
9	金融システム安定化のための政策(第9章)																	
10	金融機関の経営破たんへの対応策(第10章)																	
11	金融市場に関する規制(第11章)																	
12	間接金融型の金融商品(第12章)																	
13	直接金融型の金融商品(第13章)																	
14	ファイナンスの基礎理論																	
15	まとめ																	
ラ ブ ク ニ テ ン イ グ 	A:知識の定着・確認	知識の確認と定着のため振り返りノートの提出があります。					工 夫 そ の 他 の											
時間外学修の内容と時間の目安	準備	教科書で次回の授業に該当する箇所や参考資料を読む(15h)																
	学修	日頃から金融に関する報道や情報に触れ、自らの考えをまとめられるようにする。																
	事後	授業終了後、振り返りノートを作成し、提出する(30h)。																
	学修																	
教科書	家森信義(2022)『金融論(第3版)ベーシック+』, 中央経済社, 2,200円+税																	
参考書	小林照義(2020)『金融政策(第2版)ベーシック+』中央経済社, 2,530円 講義中にも適宜指示します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	振り返りノート+小テスト	50%																
	期末テスト	50%																
注意事項	振り返りノートの提出を出欠確認の代替としますので、3分の2以上の提出がない場合、期末テストの受験資格を失うこととなります。また、授業では教科書以外の資料を用いる場合があります。																	
備考	この授業では実体経済と金融の関係を学びます。マクロ経済学やミクロ経済学の基礎知識を身につけていることが重要です。また、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては期末テストはレポートに変更する場合があります。																	
リンク	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	エコノミスト、為替ストラテジスト
実務経験を いかした教 育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
K143E414	金融論 (Finance II)					主専門科目 その他														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	3,4	経	後期	火2	氏名 小笠原 悟 E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713														
授業の概要	経済のグローバル化、金融の資本市場化が進むにつれて金融市場は不安定化し、頻繁に金融危機が発生するようになりました。また、銀行・証券など金融仲介機関を巡る環境は大きく変化しており、中央銀行の政策運営にも大きく影響を及ぼしています。本講義では「金融論I」で学んだ知識をベースに、実体経済と金融情勢の変化を歴史的に俯瞰し、金融業そして中央銀行の役割について考察します。また最近の技術革新の進展と金融の将来について考えます。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	戦後の日本経済と金融情勢の特徴を理解する																			
目標2	銀行や証券などの金融仲介機能の役割や金融市場のリスクを理解できるようにする。																			
目標3	中央銀行の役割を説明できるようになる																			
目標4	金融を巡る最近の潮流を理解できるようにする																			
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	ガイダンス																			
2	高度経済成長期の日本経済の財政金融政策																			
3	ブレトンウッズ体制崩壊後の日本経済と財政金融政策																			
4	ブラザ合意と平成バブル																			
5	バブル崩壊後の日本経済と金融政策																			
6	不良債権問題と円高																			
7	金融危機下の金融政策とブルードレンス政策																			
8	世界金融危機とアベノミクスと金融政策																			
9	資金循環構造の変化																			
10	家計と金融イノベーション																			
11	企業と金融イノベーション																			
12	金融業界と金融イノベーション																			
13	金融と持続可能な経済社会																			
14	これからの金融																			
15	まとめ																			
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	授業終了後には知識の定着・確認のため、振り返りノートを提出してもらいます。										工 夫 そ の 他 の								
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	資料を読んで、理解できない専門用語をあらかじめ調べておく(15h)。																		
	事後学修	授業終了後、振り返りノートを作成し、提出する(30h)。																		
教科書	特に使用しません。																			
参考書	岩田規久男(2009)『金融危機の経済学』東洋経済新報社 香西泰,白川方明(2001)『バブルと金融政策』日本経済新聞社 橋木俊詔(2003)『戦後日本経済を検証する』東京大学出版会																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	振り返りノートと小テスト	50%																		
	期末テスト	50%																		
注意事項	本講義は応用科目ですので、基礎知識がなければ授業を理解することは難しいと思われます。『金融論I』を受講していること、金融に興味を持っていることが楽しく授業に参加するための重要なポイントとなります。																			
備考	将来、銀行・証券会社等金融機関への就職を目指す学生諸君にとっては、必須科目といってもよいでしょう。新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、オンライン授業になる場合もあります。また期末テストをレポートに変更する場合があります。																			
リンク																				
	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	エコノミスト、為替ストラテジスト
実務経験を いかした教 育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストの経験を有する教員が、グローバルな視野から実体経済と金融の関係について解説します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K142E423	証券論(An Introduction to Securities Market)					経済学科 経済学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	2,3	経	前期	月2	氏名 金 珍奎 E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690						
授業の概要	本講義の目的は、証券そのものや証券市場に関する基礎知識を身につけることにある。証券とは何か、株式や債券とは何か、またこれらの証券が発行・流通される証券市場とは何かについて学習する。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	証券市場の基礎から学習をスタートさせ、証券市場の全般的な仕組みを理解できるようにする。											
目標2	最終的には、日々変化している証券市場の現状を把握できるようにする。											
目標3	レポートや株式投資ゲームの報告書をつうじて株式市場についての分析能力を高める。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス(証券とは何かや講義の進め方について)											
2	株式の基礎											
3	債券の基礎と株式投資ゲームについて											
4	理論株価と株価の決定要因											
5	株式市場の様々な指標											
6	株式の投資尺度											
7	上場株式の比較分析											
8	中間まとめ(株式投資ゲームについて確認を含む)											
9	ベンチャー企業と上場制度											
10	株式市場の実際その1											
11	株式市場の実際その2											
12	債券投資と利回り分析											
13	投資信託の仕組み											
14	投資信託と証券市場											
15	総まとめ											
ラーニング ポイント チェック シート グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	株式投資ゲームの報告書の作成、レポートの提出				工夫 その他	報告書を作成するためには、日々の経済情報の把握をはじめ、様々な資料による調査・分析が必要になります。					
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学修	日々の経済指標を確認しておく(10h)。										
	事後 学修	配布資料を用いて復習する(20h)。										
教科書	教科書は指定しない。 毎回プリントを配付する。											
参考書	日本経済新聞社『やさしい株式投資』第2版2017年。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	株式投資ゲームの報告書	10%										
	レポート	10%										
	テスト	80%										
注意事項	証券関連記事を読み、授業に参加すること。											
備考	毎回、授業内容に関する質問アンケートと出席をとる。 小テストを行うことがある。											
リンク	URL											

